

安全データシート

(整理番号) 113-02

作成日：2017年(平成29年) 2月 3日
改訂日：2020年(令和2年) 10月 6日

1. 製品及び会社情報

製品名 : ウレタンシーリング
会社名 : 株式会社MonotaRO
所在地 : 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 : 商品お問合せ窓口
電話番号 : 0120-443-509
FAX番号 : 0120-289-888
緊急連絡先 : 所在地と同じ
整理番号 : M201019

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) 区分外
急性毒性 (経皮) 区分外
急性毒性 (吸入: ガス) 分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気) 分類できない
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト) 区分外
皮膚腐食性・刺激性 区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A
呼吸器感作性 分類できない
皮膚感作性 分類できない
生殖細胞変異原性 区分外
発がん性 区分外
生殖毒性 分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) 分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) 分類できない
吸引性呼吸器有害性 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性) 分類できない
水生環境有害性 (長期間) 分類できない
オゾン層への有害性 分類できない

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：警告

危険有害性情報：強い眼刺激

注意書き： [安全対策]
 子供の手の届かないところに置くこと。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 作業場の換気を十分に行い、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐこと。
 取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

[応急措置]

飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませること。直ちに医師の処置を受けること。
 無理に吐かせてはならない。
 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて医師の診断を受けること。

眼に入った場合：直ちに清浄な水で15分間以上洗眼（まぶたの裏までよく洗う）した後、速やかに医師の処置を受けること。

皮膚に付着した場合：柔らかい紙、布等で拭き取って、多量の水と石鹼で洗うこと。
 症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受けること。

[保管]

通気の良い5℃～35℃の冷暗所で密栓保管すること。

[廃棄]

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：1成分形ポリウレタン系シーリング材

成分、含有量、CAS No. 及び官報公示整理番号：

成分名	含有量 (%)	CAS No.	官報公示整理番号	国連分類	国連番号
メチルビス(4,1-フェニル)イソシアネート (MDI)	1未満	101-68-8	4-118	該当せず	該当せず
水酸化カルシウム	1～2	1305-62-0	1-181	該当せず	該当せず
酸化チタン (IV)	0～4	13463-67-7	1-558	該当せず	該当せず

分類に寄与する不純物 データなし
及び安定化添加物 :

4. 応急措置

- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませること。
直ちに医師の処置を受けること。無理に吐かせてはならない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気の場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
必要に応じて医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗眼（まぶたの裏までよく洗う）した後、
速やかに医師の処置を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 柔らかい紙、布等で拭き取って、多量の水と石鹼で洗うこと。
症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、二酸化炭素消火剤、粉末消火剤、砂。
使ってはならない消火剤 : 情報なし。
特有の危険有害性 : 情報なし。
特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。
消火作業は、可能な限り風上から行うこと。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用すること。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、適切な保護具（手袋、眼鏡、防護マスク、エプロン、長靴）
を着用すること。
密閉された場所に立入る前に換気すること。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。
封じ込め及び浄化の
方法・機材 : 土砂等の不燃物で囲い流出を防止しスコップ等で空容器に回収すること。
回収後の少量の残留分は、土砂又はオガクズ等に吸収させ回収すること。
残留分が極少量の場合は、ウエス等で拭き取ること。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを取除くこと。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。
局所排気・全体換気 : 適切な装置を用いて局所排気を行ったり、窓を開けるなどして全体換気を行
うこと。
安全取扱い注意事項 : 作業場の換気を十分行うこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止すること。
保護眼鏡、保護手袋等適切な保護具を着用すること。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管

- 保管条件 : 直射日光を避け、屋内の冷暗所で保管すること。
保管時の温度は、35℃を超えないで、火気厳禁とすること。
皮張り防止のため、使用後は密封して保管すること。
適切な容器包装材料 : 気密性のある容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

成分名	管理濃度	許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産業衛生学会 (2005年版)	ACGIH (2005年版)
メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート (MDI)	設定されていない	0.05mg/m ³ (2007年度版)	TLV-TWA 0.051mg/m ³ (2007年度版)
水酸化カルシウム	設定されていない	設定されていない (2006年度)	TLV-TWA 5mg/m ³ (2006年版)
酸化チタン (IV)	設定されていない	第2種粉塵 吸入性粉塵 1mg/m ³ 総粉塵 4mg/m ³	TLV-TWA 10mg/m ³ A 4

設備対策 火気厳禁の措置をとること。
排気のための装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 : 必要により有機ガス用防毒マスクを着用すること。
手の保護具 : 必要により適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具 : 必要により適切な眼の保護具を着用すること。
保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具 : 必要により長袖を着用すること。

適切な衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

形状 : ペースト状
色 : ホワイト、グレー
臭い : 微臭気
pH : データなし
融点・凝固点 : データなし
沸点 : データなし
引火点 : 40°C未満 (セタ密閉式)

爆発範囲 (上限・

下限) : データなし
蒸気圧 : データなし
蒸気密度 : データなし
比重 : 約 1.47 (23°C)
溶解度 : 水に不溶。
ベンゼン、トルエン、MEK等多くの有機溶剤に可溶。

オクタノール/水 : データなし
分配係数
自然発火温度 : データなし
分解温度 : データなし
臭いのしきい (閾) 値 : データなし
蒸発速度 (酢酸^γ 値=1) : データなし
燃焼性 (固体、ガス) : データなし
粘度 : 約 2.5万Pa・s (23°C)

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の取扱い条件においては安定。
- 危険有害反応可能性 : 水、アルコール、アミン等活性水素化合物と反応し発熱する。
強酸化剤とは反応して危険。
- 避けるべき条件 : 知見なし。
- 混触危険物質 : 強酸化剤。
- 危険有害な分解生成物 : 知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性 :

成分名	経口	経皮	吸入(ガス)	吸入(蒸気)	吸入(粉じん、ミスト)
メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート(MDI)	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	区分2
水酸化カルシウム	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない
酸化チタン (IV)	区分外	区分外	分類対象外	分類できない	区分外

皮膚腐食性・刺激性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート、水酸化カルシウムの含有量から、分類できないとした。

酸化チタンは区分外に分類される。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート、水酸化カルシウム、酸化チタンの含有量から、区分2Aに分類される。

呼吸器感受性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分1だが、含有量1.0%未満のため、分類できないとした。

水酸化カルシウムは、データなしのため、分類できないとした。

酸化チタンはデータなしのため、分類できないとした。

皮膚感受性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分1だが、含有量1.0%未満のため、分類できないとした。

水酸化カルシウムは、データなしのため、分類できないとした。

酸化チタンはデータ不足のため、分類できないとした。

生殖細胞変異原性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート、酸化チタンの含有量から、区分外に分類される。

水酸化カルシウムは、データなしのため、分類できないとした。

発がん性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分外、水酸化カルシウムはデータがないため、分類できない。

酸化チタンは欧州及び北米で行われたヒトに対する疫学集団研究では、酸化チタンと発がん性の因果関係は示されなかったため、分類できない。

生殖毒性 :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分外、水酸化カルシウム及び、酸化チタンはデータなしのため、分類できないとした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分3だが、含有量1.0%未満のため、分類できないとした。

水酸化カルシウムは、ヒト呼吸器、気道を刺激し肺浮腫を引き起こすとの記述があるが、本製品は粉体成分を樹脂に練りこんだ系とした場合であり、対象臓器の呼吸器は外れるため、分類できないとした。

酸化チタンは、経口では区分外に該当するが他経路でのデータが不十分であり、ヒュームは気道を刺激するとの記載があるが具体的なデータはないため、分類できないとした。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) :

メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネートは区分1だが、含有量1.0%未満のため、分類できないとした。

水酸化カルシウムは、Priority 2においてヒト肺を冒すことがあるとの記述があるが、本製品は

粉体成分を樹脂に練りこんだ系とした場合であり、対象臓器の肺は外れるため、分類できないとした。

酸化チタンは、データを総合的に検討して、分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性：

データなしのため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）：

データ不足のため、分類できないとした。

水生環境有害性（長期間）：

データ不足のため、分類できないとした。

オゾン層への有害性：

当該成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため、分類できないとした。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄物の処理及び清掃に関する法律の分類では、廃プラスチック類に該当する。乾燥硬化後、最大径 15 cm 以下に粉碎、切断して埋立処分するか、都道府県条例等に基づく焼却処理か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器・包装：内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規に定めるところに従う。

1 4. 輸送上の注意

国連分類 : 非該当

国連番号 : 非該当

容器等級 : 非該当

緊急時応急指針番号 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、毒劇物取締法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送：船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送：航空法に定めるところに従う。

輸送時の安全対策及び条件：運搬に際しては、容器に漏れがないことを確かめる。

容器の転倒、落下、損傷等のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

他の化学品と接触させない。下記適用法令に則り行うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法 : 令別表第9に定める表示義務及び通知義務の対象物

第191号（酸化チタン(IV)）

第317号（水酸化カルシウム）

第599号（メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート (MDI)）

有機溶剤中毒予防規則 : 該当せず

消防法 : 第二類 引火性固体

P R T R 法 : 第一種指定化学物質 第448号 メレンビス(4,1-フェニル)ジイソシアネート (MDI) 含有量 0.4%

第二種指定化学物質 該当せず

16. その他の情報

日本シーリング材工業会 「ノンホルムアルデヒド製品」

J S I A - 8 5 2 0 0 7 F ☆ ☆ ☆ ☆ (2017年 2月 3日登録)

※「ノンホルムアルデヒド製品」：ユリア/メラミン/フェノール/レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤等のホルムアルデヒドを発生する原材料を使用していない製品のこと。

参考文献：1) 原料メーカーのMSDS

2) 全衛生情報センターのGHS分類結果データベース

3) 製品評価技術基盤機構 (NITE) のデータベース

4) 「製品安全データシートの作成指針 (改訂2版)」 (日本化学工業協会)

5) 「労働安全衛生法MSDS対象物質全データ (改訂2版)」 (化学工業日報社)

※ 本「安全データシート」は、当社の製品を安全にご使用していただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたものです。

※ 記載内容のうち、含有量、構成比率、物理化学的性質などの値は、代表値であって保証値ではありません。

※ 本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また、内容は新しい知見に基づき改訂されることがあります。

※ すべての化学品には未知の有害性がありうるため、また危険・有害性の評価も必ずしも十分でないため取扱いには細心の注意が必要です。

ご使用者各位の責任に於いて、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。

「SDS終わり」